

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 中間評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	神崎市立脊振小学校		
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・小中共通の研究主題を設定し、9年間の成長を見据えた学力向上を目指した。来年度も小中合同の交流活動、交流授業を充実させるとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業実践に取り組んでいきたい。 ・児童が落ち着いて行動したり、友だちと助け合って生活したりすることができていた。引き続き、安心して学校生活を送ることができるような、支持的でお互いを大切に作る風土作りを推進したい。 ・コロナ禍でも方策を探り、地域・社会と連携した体験活動を行うことができた。故郷を大切に、生き方を再考する機会を引き続き持たせ、自ら考えて行動する児童を育成したい。 		
2 学校教育目標	脊振を愛し 進んで学ぶ たくましい子どもの育成		
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①安心して学べる場を確保し、子ども・保護者・地域から信頼される学校をつくる。 ②教職員の意識改革と効率的な自己研鑽を推進し、指導力と人間性の向上を図る。 ③「知、徳、体」の調和のとれた生き抜く力を備えた子どもを育成する。 		

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●全職員による共通理解と共通実践(校内研・授業改善・読書の習慣化) ●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教職員90%以上 ●図書室の年間貸し出し冊数が学年目標を達成した児童80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の技により主体的・対話的な学びの場を充実させ、児童の学びの深まりを図る。 ・児童による授業の評価(アンケート)を取り入れ、授業改善に生かす。 ・学年ごとのおすすめ30冊や図書委員による今月のおすすめの本の紹介や図書館祭りや地域の読み聞かせ会からの読み語りなどを通して、読書に親しみ機会を増やす。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートにおいて「教材研究を十分に行い今年度の研究内容を意識した授業に取り組んでいる」教師の割合が、90%以上である。主体的・対話的な学びの場を設けた授業を心がけている教師が多い。 ・学力向上対策評価シートの活用や、夏季休業中の学力向上対策会議により共通実践ができている。 ・「学校の勉強を分かりやすく教えてくれる」の学校評価児童アンケートの割合が90%以上である。 ・貸し出し冊数には、個人差はあるが、おすす30冊は50%のクリア。図書室月間で冊数のすすめの声掛けをしていきたい。 	A
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○神崎市の「四か条の誓い」や脊振小の「石の門の教え」をもとに、感謝の気持ちや礼儀正しさ、思いやりの気持ち等を育むために、教育活動全体を通して繰り返し指導し、90%の児童が生活の中で意識して実践できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権集会の実施 ・全校で「ほかほか広場」(友達の良い行動の紹介)に1年間通して取り組み、定期的に人権担当からカードを紹介する時間を設け、友達の良さ見つけへの意識を高めていく。 ・「特別の教科 道徳」についての校内研修等を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートにおいて、感謝の気持ちや礼儀を意識して生活できていると肯定的な回答した児童が100%。 ・児童が「ほかほかカード」に書いた友達のよさを人権担当が放送で紹介したことにより、お互いの良さを見つけようという意識を高めたことができた。 ・児童の笑顔に合わせて、道徳の重点目標の見直しをしていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・人権集会の実施やほかほかカードに書いた友達の良いところを放送で紹介することによって、「感謝の気持ちや礼儀を意識して生活できている」の学校評価アンケートに肯定的な回答をした児童が100%となった。 ・各担任が児童の実態を踏まえ、道徳の内容を考慮してほしい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「誰にでもあいさつが出来る」や「ありがとう、ごめんなさいが言える」のアンケート結果より、全ての児童が出来ていることが見え、先生の指導の成果と思われる。 ・ほかほかカードでの「友達の良い所紹介」は、日常的に友達の良い所を探す児童の意識向上につながり、紹介されることで児童の自己肯定感も高まっていくと思われる。今後も続けてほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教職員90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の様子やアンケートからの情報をもとに毎月個人面談を行う。 ・児童から聞き取った情報は記録し、記録簿に綴る。 ・連絡会等で他職員と共通理解を図り、組織で対応する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の観察や毎月の児童アンケートからの情報をもとに、定期的個人面談を行った。また、児童の様子について、情報共有の時間を設け、全職員が共通理解をした上で、児童の対応にあたることのできた。生徒指導や保護者との連携において組織的に対応できていると肯定的な回答をした職員は100%であった。今後も早期発見・早期対応を心がけ、いじめ防止についての意識を高めていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止等について、定期的なアンケートの結果をもとに、未然防止に努めていると回答した教職員は100%であった。 ・月1回の生徒指導協議会、教育相談連絡協議会において、情報交換を行い、対応を確認することができた。 ・配慮を要する事案については、担任を中心にチームで細やかな対応ができたことにより改善できている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と仲良く助け合って楽しい生活をほとんどの児童が出来ており、先生方の努力の成果と思われる。 ・水面下で起こるいじめや、子ども達の小さな変化を察知してほしい。今後も子ども達に寄り添って、話しやすい関係でいてほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「こまった時ときは、先生せんせい家族か そく友とだちなどに相談そうだんすることができている。」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や社会の様々な人と出会う場面を設定し、思いや願いを知ることで、学ぶことや働くことの意義を考えさせる。 ・児童に活動や学びの振り返り及びより充実させる方策を考えさせる活動を仕組みむ。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「こまった時ときは、先生せんせい家族か そく友とだちなどに相談そうだんすることができている。」について肯定的に回答した児童(生徒)80%。「毎家の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%だった。 ・地域の方との体験活動や交流の中で、様々な人の思いや願いを伝えることで、学ぶことの大切さに気づくことができた。また、振り返りを行うことにより、自分の成長や課題を感じることができていた。活動の事前指導も丁寧に行う。さらに活動への意欲が高まり、学びを深めることができると考える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「こまった時は、先生・家族・友だちなどに相談そうだんすることができている。」について肯定的に回答した児童は90%であった。教育相談連絡協議会において、情報交換を行い、児童対応に配慮ができた。 ・行事や学習など様々な場面で、地域の方々とのふれ合いを通して、農業や伝統行事、世の中の仕組みなどについて、児童の興味関心を広げることができた。児童のふり返りからも、夢や目標につながるような記述が見られた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「こまった時は、先生や家族・友達に相談ができています」と回答している。これからも子どもにとっても大人にとっても気軽に相談できる、どうしようかなと悩める温かい雰囲気の中で育ってほしい。 ・地域との交流について先生方も努力されており、また、多くの児童が地域の人とふれ合いの楽しさを覚えており、今後も地域とのふれ合いを大事にしてほしい。
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> 次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童60%以上 ②早寝早起き朝ごはんを意識し、毎食後に歯磨きをする児童70% ③「健康に良い食事している」児童70%以上 ④児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育委員会を中心に、スポーツイベントを開催する。その際に、運動や遊びを推奨する声かけを行う。 ・児童の遊び場の環境整備や道具や器具の充実を図る。 ・朝の健康観察時に家で歯磨きチェックをする。 ・朝食摂取が健康につながっていることを指導し、児童の意識を高める。 ・避難訓練において、児童及び職員の動きの理解を図り、状況に応じた避難を実施させる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育委員会を中心に、月に一度「げんきタイム」を全校で実施している。また、80%以上の児童が、休み時間を利用して外遊びを行うことができていた。 ・毎朝、登校前の歯磨きチェックを行い、100%の児童が朝食後の歯磨きができていると回答している。 ・運動会前の保健指導で、朝食摂取の重要性を伝えるとともに、家庭の協力もあって、本校児童の途中発生はなかった。 ・避難訓練時以外でも、学期初めの職員による交通指導や、下校時の交通安全についての指導などを継続して行った。児童の交通事故は発生していない。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートで「日頃から児童の危機対応能力を高める指導を行っている」に肯定的な回答をした教師の割合は100%であった。 ・学校評価アンケートで「災害の時、身を守る行動ができている」や「交通事故やけがに気がつけて安全な生活ができている」に肯定的な回答をした児童の割合は100%であった。 ・避難訓練を年間3回実施し、職員による下校指導を毎日行うことができた。大雪の際は、職員が児童を引率して下校させる等の手立を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・災害の時、身を守る行動や交通事故・けがに気を付けて安全な生活ができていると思う。 ・日頃から児童の危機対応能力を高める指導が行われている事は、災害、交通事故、日常の安全な生活において大切で、必要な事だと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で定時退勤日を設定したり、職員一人ひとりが退勤予定時刻を決めて勤務にあたりたりすることで、タイムマネジメント力を高める。 ・業務内容について職員で話し合い、スリム化及び平準化を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・4月～9月までの職員の時間外勤務平均は22.2時間であり、前年度の同期間33.3時間と比較しても、効率的に勤務にあたりることが出来る。学校評価アンケート(職員)を見ても、100%の職員が勤務時間を意識して仕事に取り組んでいると答えている。学校行事の多い2学期において、職員の健康管理に気を配りながら、業務を見直しをもつて業務にあたらせるなど、職員のタイムマネジメント力が高めていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・4月～12月までの職員の時間外勤務平均は21.8時間であった。昨年度の時間外勤務平均(同期間)が34.3時間より大幅に減り、個の見直しをもつて業務遂行能力や体調管理能力が高まってきたと思われる。アンケートでも、100%の職員が勤務時間を意識して仕事に取り組んでいると答えている。タイムマネジメント力を高める他校の実践等を紹介しつつ、本校独自の取組も探していきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・他校の実践等も視野に入れつつ、勤務時間を意識することができた。学校と地域の連携については、保護者アンケートで中間評価を上回り、96%の方が肯定的な回答だった。HPイベントギャラリーは、引き続き多くの方が閲覧されているので、地域連携活動の発信力を入れていきたい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○(学校独自重点取組・任意) 	<ul style="list-style-type: none"> ○(学校独自成果指標・任意) 	・	・	・	・	・	・	・

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○地域連携教育の充実	○地域連携力の拡大	○地域の方々との交流活動についてのアンケートで肯定的回答が保護者90%以上	・ホームページのイベントギャラリーで地域連携教育活動の広報を月1回以上行い、チーム連携の充実を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページのイベントギャラリーで教育活動の広報を月2回程度行うことができた。学校評価アンケートにおいて、「地域や社会の人と一緒に体験する活動を仕組んでいる」で、87.5%の保護者が肯定的な回答をしていた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年が学校行事や教科を通して地域の方と体験学習をすることができた。学校と地域の連携については、保護者アンケートで中間評価を上回り、96%の方が肯定的な回答だった。HPイベントギャラリーは、引き続き多くの方が閲覧されているので、地域連携活動の発信力を入れていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人とのふれ合いや体験学習をすることで、将来の夢や目標につながる目が養われるため、これからも地域連携を大事にしてほしい。保護者をあてがった交流にならなくても楽しくなると思うので、可能であれば設定してほしい。
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上(特別支援教育)	○特別支援に関する専門性が向上したとアンケートで回答した教職員90%以上	・特別支援に関する研修会の実施 ・医療機関と連携したケース会議の開催、情報共有	A	<ul style="list-style-type: none"> ・講師を招へいた校内研修と、特別支援教育コーディネーターによるミニ研修を1回ずつ実施した。 ・学校評価アンケートにおいて、100%の職員が特別支援教育について研修を深めることができた回答をしている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年に講師を招へいた校内研修を1回と特別支援教育コーディネーターによるミニ研修を2回実施した。 ・1回目の学校評価アンケートと同様に、100%の職員が特別支援教育について研修を深めることができた。今後も職員の資質向上となる研修を設定していきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級を見学させてもらい、楽しそうだと感じた。先生方もいろいろな研修に参加され、その研修内容を全教職員に伝達することで、共通理解を深めることに感謝している。これからも一人一人に合わせた教育活動、指導をお願いしたい。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然に囲まれた環境を生かした体験学習や地域と一体となった様々な交流活動を通して、それらを支えてくださる方々への感謝の気持ちをもつとともに、故郷を愛し、自ら考えて行動する児童を育成していきたい。 ・今年度も児童が主体的・対話的で深い学びができるよう工夫した授業づくりに努めてきた。特に、振り返り活動に重きを置き、児童のメタ認知を高めるとともに、基礎的・基本的な学力の向上を目指してきた。次年度は、少人数であっても互いの考えや思いが深まるようなより効果的な話し合い活動を仕組み、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に努めていきたい。 ・ほぼ全校児童が友だちとコミュニケーションをとりながら、落ち着いて学習したり、生活したりするなど楽しく学校生活を送っている。今後も、お互いを認める支持的な風土づくりや少人数の人間関係づくりに努めていきたい。
----------------	--